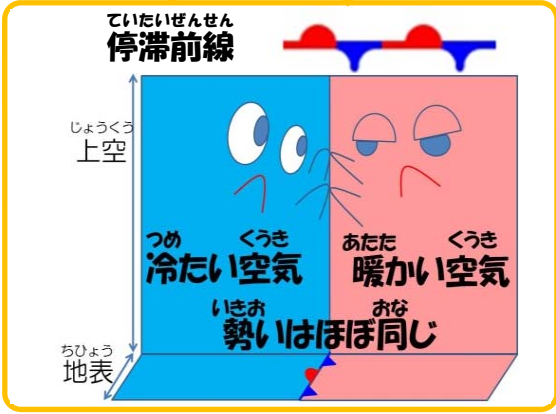
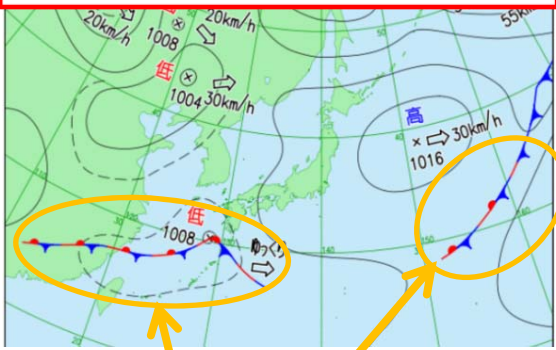


「梅雨」がやってきた(九州北部地方5月28日梅雨入り)

前線と梅雨

雨やくもりの日が多くなったら梅雨

平成30年5月28日9時の天気図



空気はすべし混じってしまいがちですが、じつは暖かい空気と冷たい空気はなかなか混じりません。この境目を前線といいます。前線の近くでは雲ができて雨が降ります。

毎年六月から七月ごろ、日本では北の冷たい空気と南の暖かい空気がぶつかって前線ができ、じめじめして雨が多い季節になります。これが梅雨です。冷たい空気と暖かい空気は、押し合いへし合いして、前線は北へいたり南へいたり毎日場所が変わります。梅雨といってもずっと悪い天気がつづくわけではなく、ときどき天気が良くなるのは、前線が北や南に離れることがあつたためです。

大雨のときは災害の可能性を意識しよう

梅雨にひそむ危険

次のイラストの災害はなに?

①山ふもとで... 災害

②川から水があふれた! 害

③水路の近くで水びたし! 害

梅雨は「じめじめ」していやな季節ですね。でも、雨は田んぼでお米を、畑で野菜を作るためになくてはならないものです。また水道の水をためているダムもこの季節の雨が、秋や冬への備えとしてとても大切です。

しかし、雨がとてたくさん降ると、川があふれたり「がけ」が崩れたり困ったこともおこります。ふだんは小さな溝でも、たくさん雨が降るとあふれて、道路が溝かわからなくなつても危険です。みなさんも雨が降つたらどこがあぶないか話し合つてみましょう。

- 大雨のぞな備え**
- 家のまわりや通学路などの危険な場所(「がけ」や川)を調べておきましょう。
 - ひなん所と安全な通り道を確認し、ひなん所で使うものを準備しよう。
 - 大雨のときは最新の情報を手に入れ、おうちの人と早めに行動できるようにしよう。
- 大切なのは、自分で考えて、しっかりと自分の命を守ることです。**

梅と雨で「つゆ」

梅と雨で「つゆ」といいますが、梅と関係があるのでしょうか？
実は、梅の実はこの時期に雨が降ることで大きく膨らみ、立派な実になります。梅にとって梅雨の雨はまさにめぐみの雨といえます。

梅雨という言葉は、中国で梅の実が熟すころの雨を「梅雨」と呼んでいたのが伝わったという説があります。また、江戸時代のころ、露がつく季節の意味で「つゆ」という呼び方になったという説もあります。



気象台でつゆの梅の実 気象台にある梅の標本木の実も熟れていました。



2018年	6月5日	火曜日
平成30年		
福岡管区気象台	〒810-0052	
防災調査課	福岡市中央区大濠1-2-36	
電話	092-725-3614 (記事) 092-725-3600 (天気相談所)	
メール	fk-kanku@met.kishou.go.jp	
(ご意見・ご要望はこちらまで)		

「お天気 Q&A」

Q: 最初の天気予報はいつで、どんな内容だったの？

A: 最初に発表された天気予報は1884年6月1日で、天気は「雨もよう」です。正確には、「全国一般風の向きは定まりなし、天気は変わり易し、但し雨天勝ち」でした。

ちなみに、気象と地震の観測が開始されたのはもっと前の1875年6月1日です。気象庁ではこの日を気象記念日として定めており、今年で143回目の記念日をむかえました。

明治時代から観測や予報をしているよ

気象情報へのアクセス

パソコン・スマホから

福岡管区 防災教育 検索

パソコン・スマホから

はれるん通信 検索